

令和元年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について

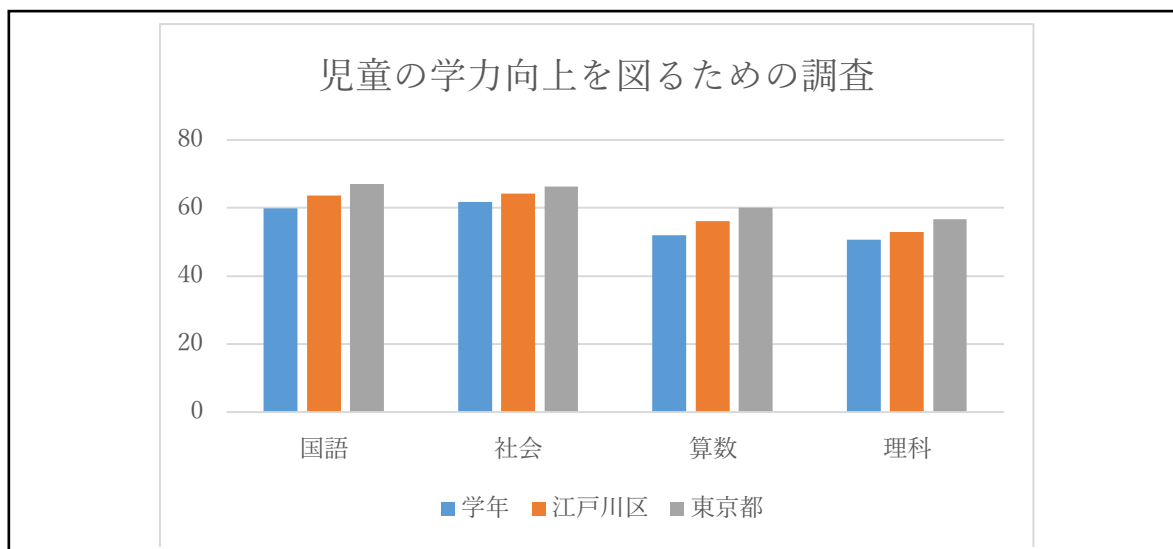
- 1 実施日 令和元年7月4日（木）
- 2 調査対象 第5学年
- 3 調査内容 （1）教科の内容（国語・社会・算数・理科）

4 調査の分析

（1）教科の内容 平均正答率（％）

①結果

| | 学年 | 江戸川区 | 東京都 |
|----|------|------|------|
| 国語 | 59.9 | 63.7 | 67.0 |
| 社会 | 61.7 | 64.2 | 66.3 |
| 算数 | 51.9 | 56.1 | 60.0 |
| 理科 | 50.7 | 53.0 | 56.6 |



②全体的な結果・考察

- ・すべてにおいて、東京都、江戸川区の平均を下回っている。
 - ・昨年度に比べ、都平均との差が広がっている。
 - ・特に算数は、全体的に約8％と大きな開きが出た。そのなかでも、思考・判断・表現において、都の平均を約10％下回っている。
- 国語について意欲的に学習に取り組み、読む領域や言語事項において昨年度よりも平均が上回っていることから、国語の基礎・基本は定着しつつあることが考えられる。
- 全体的に思考・判断・表現について苦手意識が見られる。問題が何を聞いているのか、何を求めなくてはいけないのか理解しないまま、問題に取り組んでいることが考えられる。

③具体的な改善内容

- ・国語の漢字、算数の四則計算など各教科における、基礎・基本をしっかりと抑えた学習に取り組む。
- ・朝学習、放課後の一之江タイムを利用し、ドリル学習など基礎学力の向上を図る。
- ・各授業において、毎時間の初めにはねらいを明確に児童に示す。そして、その時間の終わりには、ねらいに沿った振り返りをさせる。
- ・問題を提示するときには、何を聞いているのか題意をとらえさせる工夫をする。